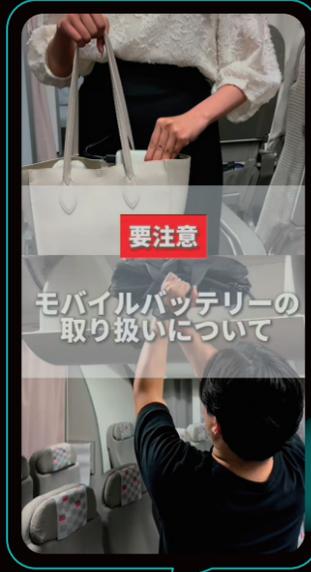




TikTokのJAL公式アカウントから、楽しく動き舞う社員の姿を発信。撮影機材はスマートフォンと照明のみ。毎月の撮影日前に企画を持ち寄る。



また、同部署の架谷直毅は、動画に込めた想いをこう明かします。「飛行機に乗る機会が少ない方にもJALや社員を身近に感じていただきたい。動画を通じてスタッフの手柄や熱意が伝わることで、『JALってなんだかいいな』『今度の旅は』

JALにしてみようかな」と思っていただけのような、温かいつながりを大切にしています」

保安ルールも「親しみやすく」

JALの「TikTok」では、楽しいダンスだけでなく、安全に関わる大切な情報も発信しています。モバイルバッテリーの扱いなど、堅苦しくなりがちなルールの説明をキャッチーな動画で行うことで、自然と理解を深めてもらえるよう工夫しています。また、一連の動画のコメント欄に「CA体験に応募しました」「将来はJALの整備士になりたい」という声が届くなど、未来の仲間との架け橋にもなっています。

目的地までのひととき、左上にある二次元コードから、TikTokのJAL公式アカウントをご覧ください。そこには普段見ることのできない、情熱と茶目っ気に溢れるJALの姿が広がっているはずです。



JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします



手作りで届ける新たなコミュニケーション

「つながる・伝わる」JALのTikTok

JALを伝える多様な媒体

本日はJALグループの機内誌『SKYWARD』^{スカイワード}を手にとった皆さまがどう感じています。JALグループは他にもFacebookやX、Instagram、LINE、オリジナルの旅コミュニティ「trico」^{トリコ}など、さまざまな形でグループの姿を発信しています。またYouTubeの「JALサブチャンネルはじめました」は、おかげさまで約40万人の方にチャンネル登録いただいています。それぞれの媒体にあわせて、各チームが正確な情報や魅力的なコンテンツの制作を目指す中、これまでにない新しいコミュニケーションを図っている「TikTokチーム」について、今回はご紹介いたします。

TikTokって… 15秒から数分に込める「JALの心」

「TikTok」とは、15秒から数分という短い動画を作成・視聴・共有するサービスで、主にスマートフォンアプリで利用されています。短い動画の中にダンスや音楽、日常のふとした瞬間を切り取ったシーンがグループのこのメディアは、若者世代からも大きな支持を得ています。JALグループがTikTokのアカ



多様な職種のTikTokチームメンバーを裏方として支える杉本(後ろから2列目中央)と架谷(最後列右から3人目)。

現場の社員が「主役」の運営

JALのTikTokの最大の特徴は、その運営体制です。「キャリアアチャレンジ」という公募制度で集まった約30名の有志たちは、パイロット、客室乗務員(CA)、空港グラウンド

スタッフ、整備士、機内食調理スタッフといった職種の枠を越えて構成され、通常業務の他に、TikTokの企画・撮影・編集を、全て自分たちで手がけています。そんなメンバーの熱量について、JALのマーケティングコミュニケーション部でTikTokの運営を担う杉本雄大は、次のように語ります。「誰かに言われてやるのではなく、『どうすればもっと面白くなるか』『JALの魅力が伝わるか』、社員一人一人が考え、常に改善を行っています。1カットの撮影にも妥協せず果敢にチャレンジする姿勢は、このチームならではの誇りです」